

例2：オンプレミス / 100ユーザー / 5TB / 500万ファイル / HA・バックアップ機能使用

マスターサーバー

メモリ

CPUスレッド数×2 推奨



CPU (コア・スレッド)

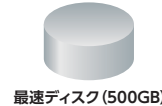
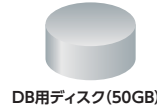
使用する機能ごとにスレッド数を加算



- ・OSその他 +1スレッド
- ・仮想ドライブ +1スレッド
- ・ティアリング/フォルダクォータ (いずれか・または両方) +1スレッド
- ・バックアップ/レプリケーション (いずれか・または両方) +1スレッド

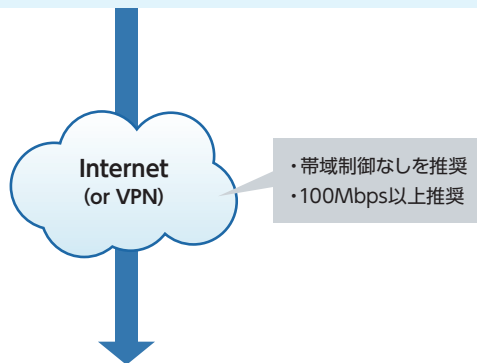
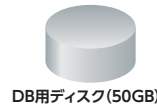
仮想ドライブ (VDライブ)

- ・DB用ディスク、最速ディスクはSSDを推奨
- ・最速ディスクに入らないデータはNASに入るよう設定



バックアップドライブ

- ・DB用ディスクはSSDを推奨
- ・バックアップデータはすべてNASへ
- ・タイムマシーン機能の利用を前提としてNASの容量は大きめに



- ・帯域制御なしを推奨
- ・100Mbps以上推奨

レプリカサーバー

メモリ

CPUスレッド数×2 推奨



CPU (コア・スレッド)

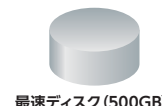
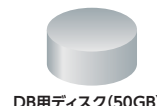
HAでの切り替えを前提として、マスターサーバーと同数とする。
切り替えをしない前提では使用する機能ごとにスレッド数を加算



- ・OSその他 +1スレッド
- ・仮想ドライブ/ティアリング (いずれか・または両方) +1スレッド
- ・バックアップ/レプリケーション (いずれか・または両方) +1スレッド

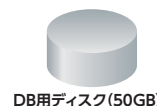
仮想ドライブ (VDライブ)

- ・DB用ディスク、最速ディスクはSSDを推奨
- ・最速ディスクに入らないデータはNASに入るよう設定



バックアップドライブ

- ・DB用ディスクはSSDを推奨
- ・バックアップデータはすべてNASへ
- ・タイムマシーン機能の利用を前提としてNASの容量は大きめに



例2：オンプレミス / 100ユーザー / 5TB / 500万ファイル / HA・バックアップ機能使用

構成全体 (利用想定)

- ・最大100ユーザーまで、全体容量5TB程度、総計500万ファイルを想定
- ・レプリケーション・HA機能の使用を想定
- ・マスターサーバー、レプリカサーバー共にオンプレミスを想定
例) マスターを本社、レプリカを支社 or DCに配置
- ・バックアップ、タイムマシーン機能 (31日分のアーカイブ保持) の使用を想定

ネットワーク関係

マスターサーバー・レプリカサーバー間

- ・100Mbps (全二重) 推奨、帯域制限なしを推奨

各サーバー・NAS間

- ・仮想ドライブ (共有フォルダ) へのアクセスを妨げないよう、各サーバー・NAS間は専用NW (裏LAN) を組むことを推奨

マスターサーバー

CPU

- ・全機能を使用する場合、4コア・4スレッド以上を推奨
- ・クロックは 2.5GHz程度、Hyper Threadingの使用は推奨しない
- ・個別にスレッド数 (コア数) を調整する場合は、以下を参考にして算出

OSその他・・・+1スレッドが必要

仮想ドライブ・・・+1スレッド

ティアリング、フォルダクォータのいずれかまたは両方・・・+1スレッド

バックアップ (タイムマシーン)、レプリケーションのいずれかまたは両方・・・+1スレッド

(参考) クラウドストレージ利用・・・+1スレッド (本構成では不要)

メモリ

- ・推奨は8GB (CPUスレッド数×2)
- ・必須は4GB (CPUスレッド数×1)

仮想ドライブ

[ディスク周りHW全般]

- ・RAIDカードはライトバック (ライトキャッシュ) 機能を有するものを推奨
- ・各ディスクのRAIDレベルは1、5、6のいずれかを推奨

[データベース用ディスク]

- ・50GB以上、サーバー内蔵SSDを推奨 (もしくはSAS接続HDD)
- ・他のディスクと共用せず、専用パーティションとすることを推奨

[最速ディスク]

- ・500GB以上、サーバー内蔵SSDを推奨 (もしくはSAS接続HDD)
- ・他のディスクと共用せず、専用パーティションとすることを推奨

[低速ストレージ]

- ・内蔵ディスクではなくNASの使用を想定、容量は実容量5TB
- ・速度および安定性のため、NASへは専用NWでの接続とすることを推奨

バックアップドライブ

[データベース用ディスク]

- ・100GB以上、サーバー内蔵SSDを推奨
- ・他のディスクと共用せず、専用パーティションとすることを推奨

[低速ストレージ]

- ・バックアップはすべてNASに入れることを想定、容量は実容量6TB以上
- ・タイムマシーン機能 (アーカイブ) 31日分を想定し、仮想ドライブのNASより1TB以上大きめの容量とする。ファイルの追加・更新が頻繁な場合、およびアーカイブの保存期間が長い場合はこれ以上のサイズが必要な可能性あり

レプリカサーバー

CPU

- ・HAでの切り替えを前提として、マスターサーバーと同じ4コア・4スレッド以上を推奨
- ・HAでの切り替え後の運用を想定せず、個別にコア数を調整する場合は以下を参考にして算出

OSその他・・・+1スレッドが必要

仮想ドライブ、ティアリングのいずれかまたは両方・・・+1スレッド

バックアップ (タイムマシーン)、レプリケーションのいずれかまたは両方・・・+1スレッド

(参考) クラウドストレージ利用・・・+1スレッド (本構成では不要)

メモリ

- ・CPU同様、マスターサーバーと同じ8GBとすることを推奨
- ・調整する場合には、推奨はCPUスレッド数×2、必須はCPUスレッド数×1

レプリカドライブ

[ディスク周りHW全般]

- ・HAを想定し、マスターサーバーと同一スペックとすることを推奨

[データベース用ディスク]

- ・50GB以上、サーバー内蔵SSDを推奨 (もしくはSAS接続HDD)
- ・他のディスクと共用せず、専用パーティションとすることを推奨

[最速ディスク]

- ・500GB以上、サーバー内蔵SSDを推奨 (もしくはSAS接続HDD)
- ・他のディスクと共用せず、専用パーティションとすることを推奨

[低速ストレージ]

- ・内蔵ディスクではなくNASの使用を想定、容量は実容量5TB
- ・速度および安定性のため、NASへは専用NWでの接続とすることを推奨

バックアップドライブ

[データベース用ディスク]

- ・100GB以上、サーバー内蔵SSDを推奨
- ・他のディスクと共用せず、専用パーティションとすることを推奨

[低速ストレージ]

- ・バックアップはすべてNASに入れることを想定、容量は実容量6TB以上
- ・タイムマシーン機能 (アーカイブ) 31日分を想定し、仮想ドライブのNASより1TB以上大きめの容量とする。ファイルの追加・更新が頻繁な場合、およびアーカイブの保存期間が長い場合はこれ以上のサイズが必要な可能性あり

その他

低速ストレージ用NAS

- ・仮想ドライブ・バックアップドライブ間での共用は行わないこと
- ・マスターサーバー・レプリカサーバー間での共用は行わないこと